

得意先を接待したときの費用は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



新人さん：緊急事態宣言が解除されて、徐々に営業部の人たちが動き始めていますね。

先輩：そうだな。仕事のやり方は変わっていくだろうけど、人と人のかかわりも大事だからな。

新人さん：接待も大事ですが、使いすぎは困りますね。

先輩：営業のために必要な経費といっても、行き過ぎた接待は会社の健全性を害するからな。税務上も、一定の限度額を超える金額は損金としては認められないのだよ。

新人さん：経費として使っても認められないのですね。

先輩：会計上の費用と税務上の損金は必ずしも一致するわけではないからな。

る者に対して、会社が営業上必要な接待、供応、慰安、贈答などをした際に支出した費用を処理する勘定科目です。事業に関連する者には、得意先などのほか、自社の株主、役員、従業員なども含まれます。

「交際費」は会社の営業上必要な費用ですので、会計上は費用として計上されます。しかし、税法上は、冗費の乱用を防ぐ観点から、支出した交際費のうち50%相当額しか損金算入が認められていません（資本金が100億円超の法人等は交際費の損金算入が認められない）。

ただし、資本金が1億円以下の中小法人に関しては、定額控除限度額の特例があり、年800万円までの支出した交際費は損金に算入することができます。

また、税法上、営業上必要な接待などであっても、1人当たり5,000円以下の飲食などは、「交際費」から除外され、「会議費」などとして損金に計上できます。 ●

●解説

「交際費」とは、得意先、仕入先その他事業に関連す

ケース1 得意先を接待した際の飲食代やタクシー代の処理

得意先との接待のため、飲食代22,000円（税込み）と、タクシー代4,400円（税込み）を現金で支払った。

【借方】	交際費	24,000	／	【貸方】	現金	26,400
	仮払消費税等	2,400				

ケース2 1人5,000円以下の接待をした際の飲食代の処理

得意先の新任の営業部長1名を就任祝いのため食事に招待し、2名分の代金8,800円（税込み）を現金で支払った。

【借方】	会議費	8,000	／	【貸方】	現金	8,800
	仮払消費税等	800				